

(演題名) コロナ禍におけるメンタルヘルス診療所しっぽふあーれの取り組み

著者

筆頭：藤井和世¹

共同：伊藤順一郎¹、伊藤砂智子¹、浦林翼¹、川村全¹、中山喬晶¹、難波純¹、橋本誠¹、斎藤和彦²、五ノ坪洋孝²、名手千晶²

所属 1. メンタルヘルス診療所しっぽふあーれ 2. NPO 法人リカバリーサポートセンターACTIPS

(本文)

当院は Assertive Community Treatment; 包括型地域生活支援プログラム (以下、ACT) を実施することを主な目的として 2015 年 4 月に在宅療養支援診療所として開設した。以来、相談支援事業と訪問看護ステーション事業 (ACT-J) を実施している NPO 法人リカバリーサポートセンターACTIPS や周辺の精神保健福祉医療サービスと連携しながら地域で暮らす利用者の診療を行ってきた。

診療所を開設したことで、ご本人・ご家族や様々な支援機関から、訪問診療を含めた柔軟な対応を要する新規利用者の申し込みがあり、これらのニーズに応える中で、従来の ACT の利用基準からは外れてしまう児童思春期、発達障害、アルコール・薬物等の依存症候群やゲーム障害、高齢者の精神疾患など様々なニーズにも徐々に対応を広げている。

これらの流れもあり、ACT というサービスに加え、昨今注目されているオープンダイアログのような対話的な関わりやトラウマインフォームドケアの重要性も認識し、スタッフの相談やケース検討をリフレクティングという手法を用いたり、トラウマについての研修を行ったりしてきた。ピアサポートに関しては当院では 2016 年頃からピアスタッフによる同行訪問を行なっている。その他、ACTIPS 主催で当事者研究、経験専門家という取り組みを行なったこともあった。

このような取り組みを行う中、コロナ禍を迎え、2020 年当初に計画していた感情調節困難に対する集団精神療法が実施できなくなるなどの計画の変更を余儀なくされた。診療においては、新たに BCP: Business Continuity Plan を作成し、それに基づいて安全に配慮して診療を継続することとした。

また、未知のウイルスによるパンデミックという特殊災害へのメンタルヘルスケアとして自分たちが普段関わる地域に対し何か出来ることはないかと模索を始め、地域の有志を集め、コロナ禍の心の変化についての啓発ポスターを作り啓発活動を行いながら、無料相談の場を「いちかわみんなのほけんしつ」と称して 2020 年 7 月より開いている。この活動を通し、地域の人と利用者や支援者のつながりが新たに生まれ、これまで以上に地域に根差した活動が出来るようになってきていると感じている。

(2021. 5. 23 第 6 回日本多機能型精神科診療所研究会 横浜大会)